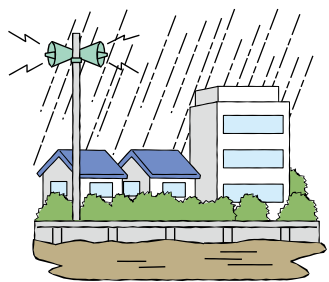


大雨が降り出したら

1 大雨のときに注意したいこと



- 地域の防災情報に注意し、近くの川の水位上昇にも注意しましょう。



- がけ地や河川の近くでは、隣近所で声をかけ合い、早めに避難の準備をしましょう。



- 動きやすい服装で避難しましょう。長靴は水が溜まり動きにくくなるため避けましょう。

気象情報では、よく「1時間雨量○mm」、「風速○m」という表現が出てきます。そのときの雨や風の強さが具体的にはどのようなものなのか、イメージしてみましょう。(以下は、いずれも気象庁資料を参考にして作成)

mm/時	雨の強さと降り方	
10以上 20未満	やや強い雨 (ザーザーと降る)	地面からの跳ね返りで、足元が濡れる。
20以上 30未満	強い雨 (どしゃ降り)	ワイパーを速くしても見づらい。
30以上 50未満	激しい雨 (バケツをひっくり返したように降る)	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ、ブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象)
50以上 80未満	非常に激しい雨 (滝のように降る)	傘は全く役に立たなくなる。水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。
80以上	猛烈な雨 (息苦しくなるような圧迫感。恐怖を感じる)	

m/秒	風の強さと吹き方	
10以上15未満	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。樹木全体が揺れ始める。
15以上20未満	強い風	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。電線が鳴り始める。
20以上25未満	非常に強い風	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。
25以上30未満		
30以上35未満	猛烈な風	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で、倒れるものがある。ブロック塀で、倒壊するものがある。
35以上40未満		
40以上		



ペットボトルやコップを使って雨量確認

自主避難の目安にするため、ペットボトルやコップを使って簡易雨量計を作り、雨量を計測してみたいかどうか。「降り始めから○○mmまで達したら避難準備」などと家族で取り決めておくのもよいですね。雨量計は屋根などの障害物のない平坦な場所に置きましょう。



Check!

外出は控えましょう。

外出により予期せぬトラブルに巻き込まれることがあります。緊急性がなければ外出は控えましょう。

田畑や河川、水路の様子を見に行っはいけません。

いつもより水量が増えていて、洪水に巻き込まれる危険性があります。



屋根に上って作業してはいけません。

屋根の素材は滑りやすいため、落下してしまうおそれがあります。浸水の可能性があるときは、建物内のできる限り高いところに避難しましょう。

2 洪水のときの避難方法 p14~21参照

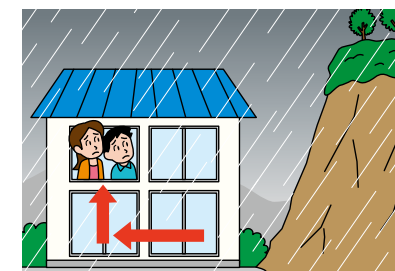
川の流れ・土石流に対し直角に逃げましょう

- 近くに川が流れている場合、川が決壊したときに濁流に巻き込まれるおそれがあります。洪水や土石流が発生する前に逃げるのが基本ですが、万が一遭遇した場合には、濁流や土砂の流れる方向に対して直角に、少しでも高い場所へ逃げましょう。



時間がない場合は垂直避難を

- 災害時、身に危険が迫っているが、安全な場所まで避難する時間がない場合に、建物内のより高い場所に向かって避難することを「垂直避難」といいます。屋内にとどまっていた方が安全な場合等やむを得ないときは、屋内の2階以上の場所、斜面と反対側の部屋に避難しましょう。



むやみに歩かない

- 浸水した道路は、水面下が見えず多くの危険が潜んでいます。段差に足をとられて転倒したり、誤って水路に転落したりするおそれがあります。
- 避難するときは、浸水している道路は避けて通行するようにしてください。また、浸水が始まる前に早めに避難することを心がけてください。



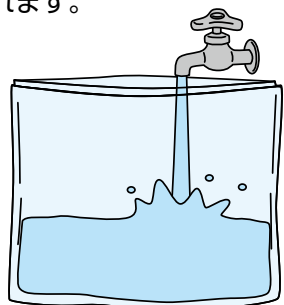
3 水のうの活用

「水のう」とは、小規模な水害で家が浸水しそうになった場合に、その水をせき止めるために使用するものです。

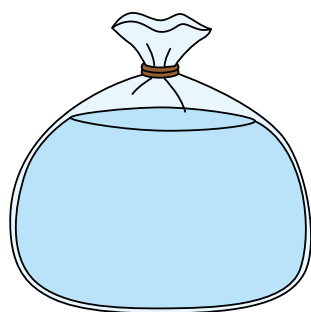
水をせき止める道具としては、「土のう」がよく知られていますが、水のうは、土のうよりも簡単に作ることができますし、10cm程度の水深であれば、水のうを使って浸水を防ぐことができます。

ゴミ袋・レジ袋を使った方法

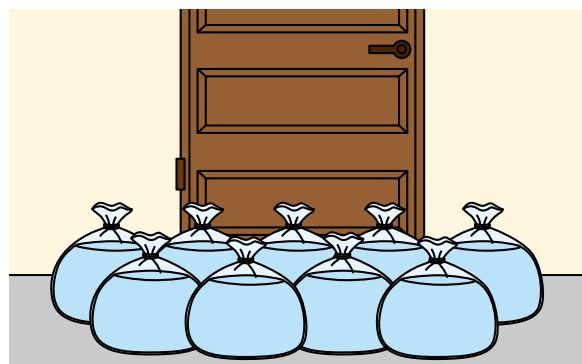
- 1 一般的なゴミ袋やレジ袋を2～3枚重ねて、水を入れます。



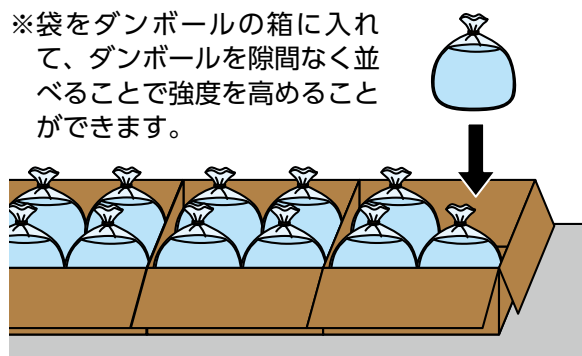
- 2 袋の中の空気を抜き、口をきつくしばります。



- 3 玄関などに、隙間なく並べます。

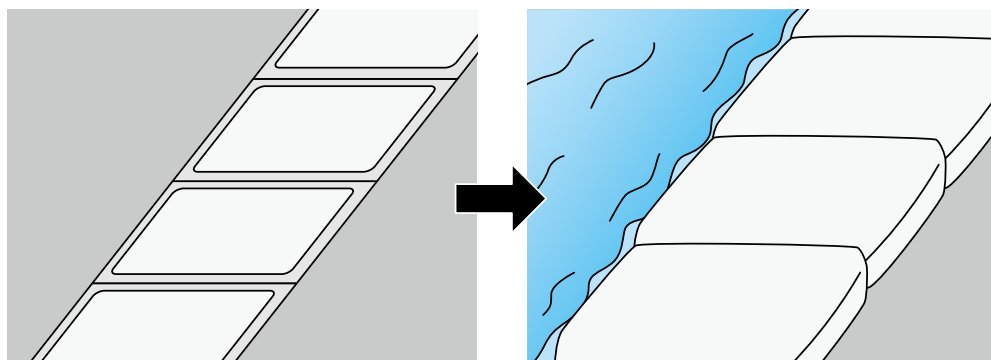


※袋をダンボールの箱に入れて、ダンボールを隙間なく並べることで強度を高めることができます。



吸水性ゲル水のうを使った方法

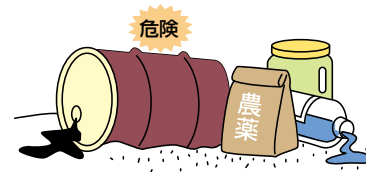
吸水性ゲル水のうは、水を吸うことで膨張する水のうです。軽量でコンパクトなので、簡単に運ぶことができ、保管スペースを取りません。



4 風水害のあとしまつ

台風や豪雨の後は、危険がいっぱいです。地域で協力しあって安全な復旧活動（ふきゅうかつどう）をしましょう。

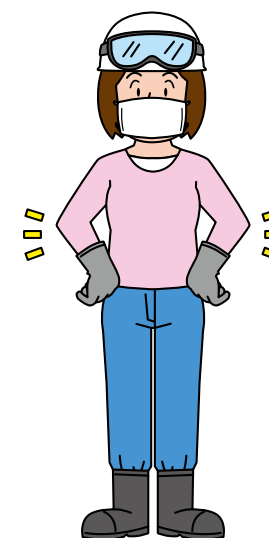
危険物が漏れていないか点検しましょう。



プロパンガスに異常はないか確認しましょう。



けがをしないよう、活動時には肌を露出しない服装にしましょう。ヘルメットも着用して落下物（おちもの）に備えましょう。



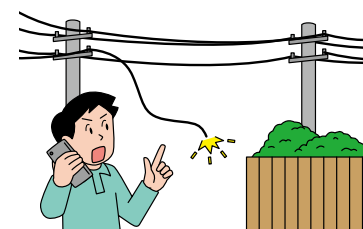
ごみや汚物の処理は早めに行いましょう。



地域の清掃に協力しましょう。



切れている電線を見つけたら絶対に触れずに電力会社へ通報しましょう。



中部電力ホームページ
停電の情報を携帯・スマートフォン・PCで確認できます。

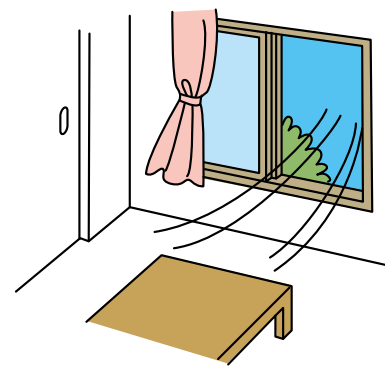


落下（おち）や倒壊（たうかい）の危険物があれば直ちに補強（きゆうかう）や除去（てきぞ）を行いましょう。

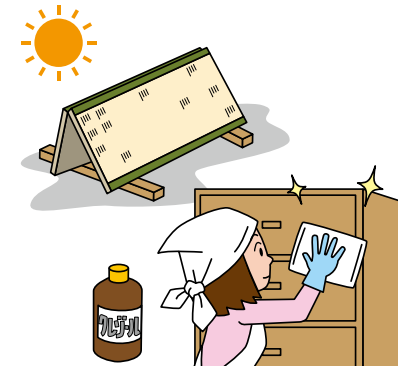


浸水のあとは…

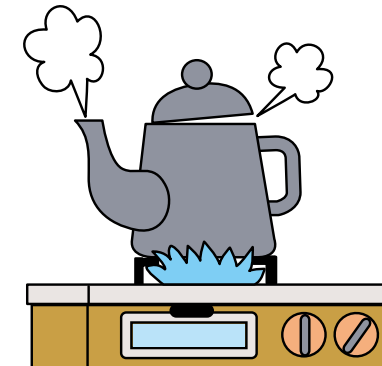
- 家の中は風通しをよくして乾燥させます。



- 家財道具やたたみなどは、日光消毒したり、クレゾール液（けれぞーる）でよく拭きます。



- 衛生（えいせい）に注意（ちゅうい）しましょう。水道水を飲用（えんよう）するときは、煮沸（くわいてい）消毒してから使用（しよう）します。



土砂災害に気をつけよう

1 土砂災害警戒区域の指定について

平成27年3月30日付けで、長野県知事により軽井沢町全域で土砂災害警戒区域（イエローゾーン）・土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）が指定されました。

この指定の目的は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）の一定の基準に基づき、土砂災害のおそれがある区域を指定し、併せて危険の周知、警戒避難体制の整備等のソフト対策の推進を図っていくことにあります。

大雨による土砂災害は、どこで発生するか分かりません。危険が迫っているときは、危険な場所には近づかず、早めの避難を心がけてください。

なお、町内の土砂災害警戒区域・特別警戒区域については、別途配付している「土砂災害防災マップ」にてご確認ください。



軽井沢町
ホームページ

Check!

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域とは

崖崩れや土石流などが発生した場合に被害を受けるおそれのある区域を長野県が土砂災害（特別）警戒区域と指定しています。軽井沢町は、指定されている箇所が多数あります。指定されている箇所にお住まいの方は、大雨のときに警戒避難が必要となることがありますので、注意してください。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

土砂災害のおそれがある区域

土砂災害が発生した場合に、『住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域』で危険の周知、警戒避難体制の整備を目的としています。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害警戒区域のうち建築物に損害が生じ住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害が発生した場合に、『建築物に損害が生じ住民に著しい危害が生じるおそれがある区域』で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

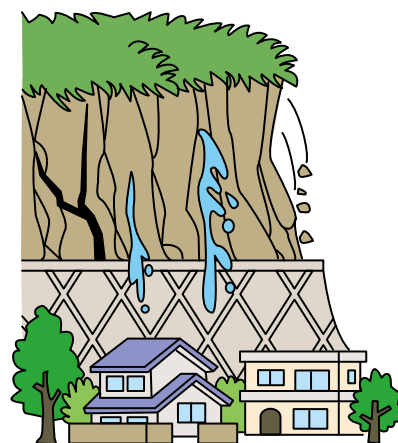
2 土砂災害の種類と前ぶれ

崖崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、急激に斜面が崩れ落ちる現象。突発的かつ急速に起こることが多いのが特徴です。

【前ぶれ】

- 小石がバラバラと落ちてくる。
- 崖から水が湧いてくる。
- 崖にひび割れができる。

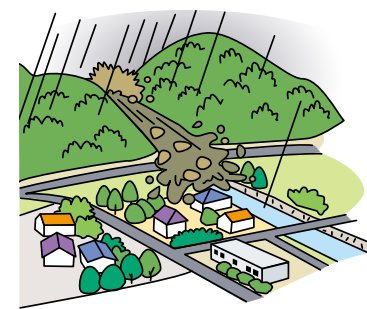


土石流

土石と水が一体となって流れ落ちる現象。昔から「山津波」や「鉄砲水」といっておそれられています。

【前ぶれ】

- 山鳴りや立木の裂けるような音、ふだん聞かない大きな音がする。
- 雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。
- 川の水が濁ったり、流木が見られる。



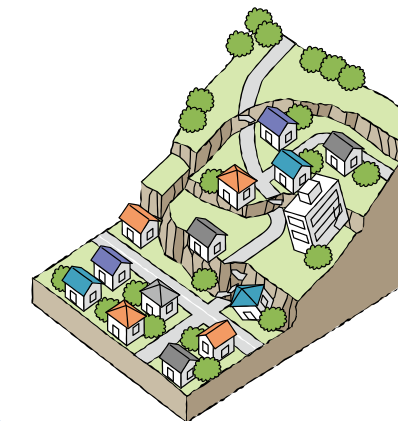
地すべり

すべりやすい地層を境に、その上の土がそっくり動き出す現象。

【前ぶれ】

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没したりする。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 崖や斜面から水が噴き出す。

※令和6年3月現在、軽井沢町では「地すべり」の対象地域の指定はありません。



土砂災害は、大雨のときだけでなく、雨がやんでからも発生する可能性がありますので、油断しないようにしましょう。

3 注意したい場所は？

里山に近い集落付近

集中豪雨や地震による山崩れに用心しましょう。山間部の集中豪雨からの土石流にも要注意。危険を感じたら早めに避難の準備を。



小川や水路よりも低い土地

小さな河川であっても、ごみなど思わぬ障害物であふれる危険性があります。ご近所の皆さんで定期的に掃除するように心がけてください。

